

消滅危機言語ドゥンシャン語の音韻的記述

文学研究科 修士課程 2年

外賀 葵

中国

2018年9月2日～2018年9月26日

計画の概要

中国の少数民族の一つ、ドゥンシャン族によって話されるドゥンシャン語は消滅の危機に瀕している言語である。今回の滞在では、修士論文執筆のために不可欠な一次資料を収集することを主たる目的とした。一次資料の収集のためには、ドゥンシャン語母語話者の協力が必要である。現地を訪問し、複数の協力者に調査協力への了承を得た後で、生活に根差した語彙の書き取りや、母語話者の発話の録音等を行い、必要な言語データを収集した。収集したデータは一般言語学的方法で分析し、修士論文においてその成果として記述する。

成果

今回の滞在の成果は以下の三点にまとめられる。

第一に、複数のドゥンシャン語母語話者と新たな関係を築くことができたことである。言語の記述には、母語話者の協力が不可欠であることは言うまでもない。本渡航以前は、数人の母語話者としか知り合うことができず、さらに実生活でドゥンシャン語を用いる機会はそれほど多くないという話者の方であったため、調査の環境は十分に整っているとは言えなかった。しかし今回の滞在においては、ドゥンシャン語を用いて生活を営んでいる流暢な母語話者の方々と交流する機会を何度も得られ、今後の研究の土台を築くことができた。年配の方々だけでなく、学校に通う子どもたちとも交流する機会があり、老若男女を問わず様々なドゥンシャン族の方々とドゥンシャン語やドゥンシャン文化について話す機会も得られ、言語・文化を理解する上で大いに役立った。

第二に、ドゥンシャン族の暮らしを



実際に体験できたことである。ドゥンシャン語を用いて生活する母語話者の方々との交流において、日常生活をどのように送っているかインタビューする機会を得られただけでなく、日々の食事や生業である牧畜業、農業の体験を通じて、直接その文化に触れることができた。食事の際には、座り方や食べる順番といった作法を教えてもらったり、牧畜業については、牧羊舎で餌やりや飲み水の取替えのお手伝いをしたり、子ヤギを母ヤギの元へ連れてゆきお乳を飲ませたりした。また農業では、じゃがいも掘りやトウモロコシの収穫のほか、花椒の選別等を行った。その風土のその場でしかできないことを、現地の言葉で直接教えてもらいながら体験できたことは、またとなく貴重な経験となった。目的の一つに日常生活に根差した語彙の収集があったが、実際に体験してゆく中で少しずつ語彙を覚え使えるようになったため、概ね達成できたのではないかと思う。

第三に、言語調査において先行研究には見られない現象が観察されたことである。例えば語彙調査においては、従来の記述とは異なる語彙が収集された。これは時代差あるいは地域差による差異であろうと判断できるが、いずれにしても、そのような差異について十分に記述した文献は見られないため、非常に興味深いデータを得ることができた。得られたデータは今後綿密に分析し、差異について詳しく記述してゆきたい。

以上が今回の滞在における成果である。これらの成果をもとに、修士論文執筆に尽力したい。

